

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年2月12日 (2009.2.12)

【公表番号】特表2008-523083(P2008-523083A)

【公表日】平成20年7月3日 (2008.7.3)

【年通号数】公開・登録公報2008-026

【出願番号】特願2007-545628(P2007-545628)

【国際特許分類】

C 0 7 K 16/46 (2006.01)

C 0 7 K 16/24 (2006.01)

C 0 7 K 16/28 (2006.01)

C 0 7 K 16/36 (2006.01)

C 0 7 K 14/705 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 7/04 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 17/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/14 (2006.01)

A 6 1 K 51/00 (2006.01)

A 6 1 K 49/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 16/46

C 0 7 K 16/24

C 0 7 K 16/28

C 0 7 K 16/36

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 16/18

C 0 7 K 19/00

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 37/02

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 9/10 1 0 1

A 6 1 P 7/04

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 17/10
A 6 1 P 9/14
A 6 1 P 9/10
A 6 1 K 49/02 A
A 6 1 K 49/04 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年12月5日(2008.12.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも2つの異なる標的と特異的に反応する多特異的アンタゴニストであって、該標的が、(A) 先天的免疫系の炎症促進性エフェクターと、(B) 凝固因子と、(C) 補体因子および補体調節タンパク質と、(D) 炎症性障害または免疫調節不全障害と特異的に関連する標的、または病的血管新生もしくはがんと特異的に関連する標的とからなる群より選択され、後者の標的 (D) が 標的 (A) でも、標的 (B) でも、標的 (C) でもなく、

(i) 前記標的の少なくとも1つが(A)、(B)または(C)であり、

(i i) 前記多特異的アンタゴニストが、単一の多特異的抗体を含む場合は、C D 7 4 が前記アンタゴニストの標的として排除され、そして

(i i i) 前記多特異的アンタゴニストが、別個の抗体の組み合わせを含む場合、前記抗体の1つがB細胞抗原を標的化し、かつもう一方の抗体がT細胞、形質細胞、マクロファージまたは炎症性サイトカインを標的化する組み合わせが排除され、前記抗体の1つがC D 2 0を標的化し、かつもう一方の抗体がC 3 bまたはC D 4 0を標的化する組み合わせも排除される、多特異的アンタゴニスト。

【請求項 2】

2つの別個の抗体の組み合わせである、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項 3】

多特異的抗体である、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項 4】

融合タンパク質である、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項 5】

前記2つの異なる標的の1つが標的(D)である、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項 6】

前記アンタゴニストが、少なくとも1つの炎症促進性エフェクターサイトカイン または炎症促進性エフェクターケモカイン と特異的に反応する、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項 7】

前記アンタゴニストが 炎症促進性エフェクターレセプター を含むか、少なくとも1つの炎症促進性エフェクターレセプターと特異的に反応する、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項 8】

前記アンタゴニストが、少なくとも1つの凝固因子と特異的に反応する、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項 9】

前記アンタゴニストが、少なくとも1つの補体因子または少なくとも1つの補体調節タンパク質と特異的に反応する、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項10】

適応的免疫系の抗原またはレセプターを標的化する、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項11】

がん細胞レセプターまたはがん関連抗原を標的化する、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項12】

前記アンタゴニストが、単一の活性成分を含む、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項13】

先天的免疫系の成分または適応免疫系の成分に作用する二次的な治療剤をさらに含む、請求項1に記載の多特異的アンタゴニスト。

【請求項14】

少なくとも2つの異なる標的と特異的に反応する多特異的アンタゴニストの使用であって、前記標的が、(A)先天的免疫系の炎症促進性エフェクターと、(B)凝固因子と、(C)補体因子および補体調節タンパク質と、(D)炎症性障害または免疫調節不全障害と特異的に関連する標的、または病的血管新生もしくはがんと特異的に関連する標的とからなる群から選択され、前記後者の標的(D)が標的(A)でも、標的(B)でも、標的(C)でもなく、

(i)前記標的の少なくとも1つが(A)、(B)または(C)であり、

(ii)前記多特異的アンタゴニストが、単一の多特異的抗体を含む場合は、CD74が前記アンタゴニストの標的として排除され、そして

(iii)前記多特異的アンタゴニストが、別個の抗体の組み合わせを含む場合、前記抗体の1つがB細胞抗原を標的化し、かつもう一方の抗体がT細胞、形質細胞、マクロファージまたは炎症性サイトカインを標的化する組み合わせが排除され、前記抗体の1つがCD20を標的化し、かつもう一方の抗体がCD3bまたはCD40を標的化する組み合わせも排除され、

炎症性または免疫調節不全障害、病的血管新生もしくはがんと、および感染性疾患である状態の治療のための医薬であって、前記医薬が前記多特異的アンタゴニストの治療上有効な量を含む医薬の製造における使用。

【請求項15】

前記状態が自己免疫疾患ではない、請求項14に記載の使用。

【請求項16】

前記状態が自己免疫疾患である、請求項14に記載の使用。

【請求項17】

前記状態がクラスIII自己免疫疾患である、請求項14に記載の使用。

【請求項18】

前記状態が、敗血症または敗血性ショック、感染性疾患、神経障害、移植片対宿主病または移植片拒絶、急性呼吸窮迫症候群、肉芽腫性疾患、喘息、アテローム性動脈硬化症、悪液質、病的血管新生、がん、血液凝固障害、座瘡、巨細胞性動脈炎または心筋虚血である、請求項14に記載の使用。